

## 【OnebyESU JFF#701D ストーリー】

## ～クロモリスチールディスクフレームが生まれるまで～

2020 年はワンバイエスのフレーム作り 10 年の節目、スチールロードモデルの **JFF #501** から始まりシクロクロスでは 5 モデル、今年はロード系チタンディスク **JFF Ti** を発売、そしてようやくロード系スチールディスクモデルの発表となりました。

「心地よいロード系スチールディスクフレーム&カーボンフォーク」の製品化を目指したのは 2017 年。開発の根幹にあるのは、“JFFらしいバランス感”を出すことでした。時代の変遷とともに、基幹部品や装備、乗車環境やライダースキルなど諸々が変われど、JFFらしく“何だかスィスイ気持ちいいな〜”…という心地よい感触を追求し、**#501** と同じく 4 年の歳月を掛け、ロード系スチールディスクモデルの **JFF #701D** がようやく完成しました。

シンプルなクロモリスチールならではの心地良さ、耐久性、カラーオーダーでの個性をベースに、快走ロード・穏やかなツーリング・適度にアグレッシブなオフロード（グラベル）と用途の幅が広いオールラウンドなモデルに仕上がりました。

今回はその **JFF #701D** について、誕生までのストーリーを世代に分けてお伝えします。



スチール  
ロードモデル  
JFF #501



スチール ディスク  
シクロクロスモデル  
JFF #801

## 4世代4年の変遷



## 第1世代（2017 年）

▶プロトタイプでは、リムブレーキのスタンダードな **#501** (Vol.2/3 参照) のジオメトリーに加え、**#801** を始めとするシクロクロスモデル開発時の幾多のノウハウも含めて、それらをロード系ディスクブレーキ用に発展させつつ、ヘッドはそのまま 1-1/8" としました。

この時点では、他社ブランドのカーボンフォークを使用していました。多種のカテゴリーで実績あるライダーからの評価も高いものでしたが、前後バランスの若干のもたつきをスッキリさせる必要がありました。また、ハンドリングに最重要なフォークのオフセットは、サイズや乗り方によって選択できる方法（システム）を検討する必要がありました。

## 第2世代（2018 年）

▶トップチューブを楕円にし、ケーブル類の内蔵化や 700×28C でフルフェンダーの装着を可能とし、700×35C タイヤの許容を条件とした設計を行いました。ヘッドを 1-1/8"-1-1/4" のテーパーにすると同時に、オフセットを 2 サイズ選択できるフォークを開発。これらにより走行バランス、特に操舵性は格段に改善されました。しかし、ヘッド周りの過剰なガッチリ感は厳しい高速コーナーでは優位に働くものの、総合的にはリアバックの剛性と相まって直進安定感とスィスイ感の無いガッチリし過ぎの印象が残るものとなっていました。

※このモデルの設計が後のチタン **JFF Ti** 誕生のきっかけとなりました。(Vol.21・JFF Ti 特設サイト参照)

